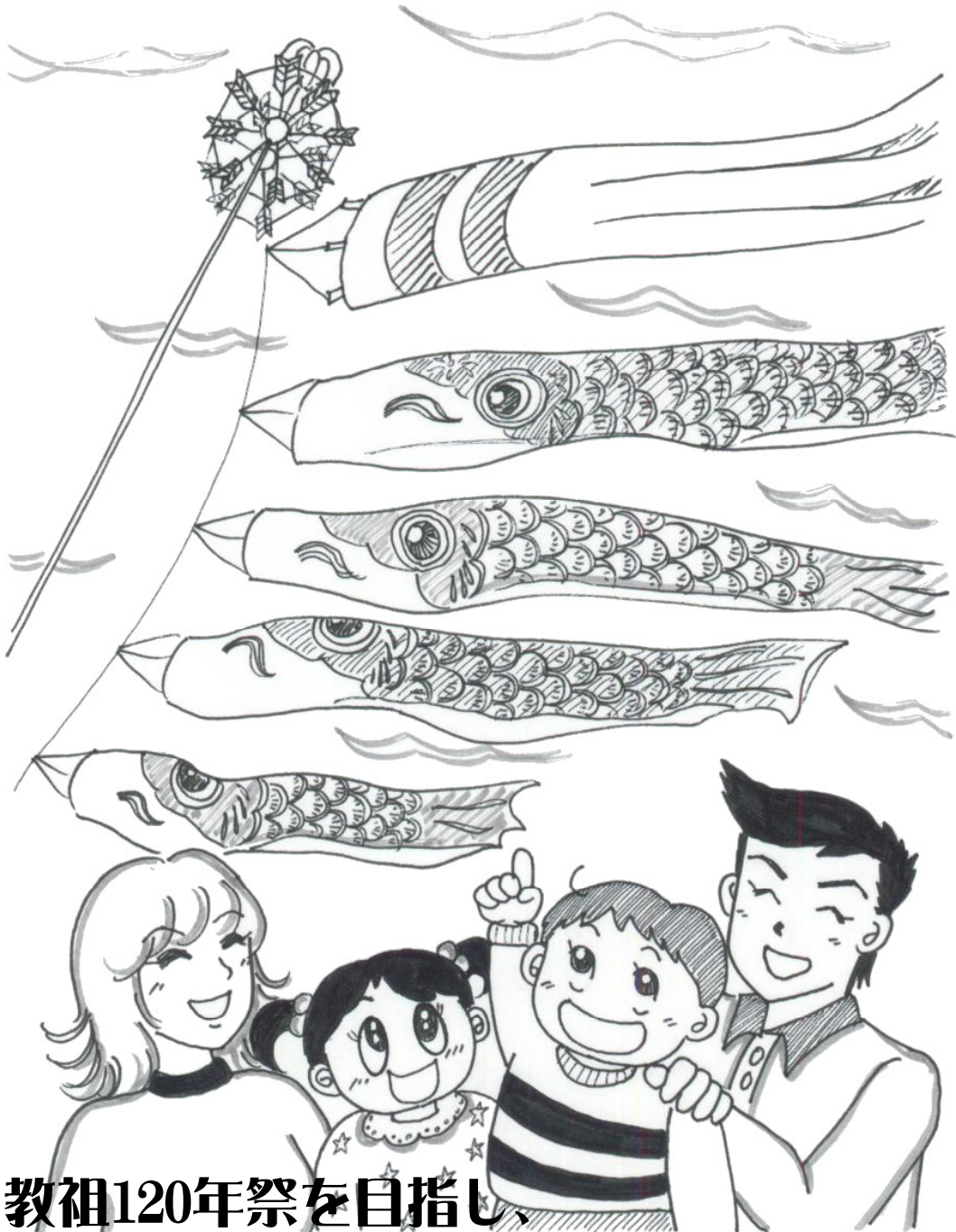


かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311



**教祖120年祭を目指し、
道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。**

立教165年 教会長講習会 開催される

年一度の教会長講習会、今年は大物講師二人をお迎えして一泊二日でつとめさせて頂きました。

大教会長様のご挨拶は、教祖一〇〇年祭をお迎えする心の基礎づくりをして、過去三年間創立一〇〇周年で勉強した事を忘れずに、良かった「おさづけの取り次ぎ」・「百万軒」・「陽気ぐらし講座」等々を続けていってほしいと申され、この講習会が有意義に進めるようお願いし、挨拶といたしますとのべられました。

講習の目的

主旨 教会内容の更なる充実を目指し教会長は「なるほどの人」を目標に世界たすけの使命感を高めることを目標とする。

そして **大教会 本年の方針**

「教祖一〇〇年祭を
目指し、道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。」

この指針にしたがい、一つは「布教」(にをいかけ)、二つは「道の後継者の育成」について講習会を

進める事となりました。

ところでプランニングを布教部で練り、次の様に決まりました。

それは「ねりあい」です。

丁度、(本部(布教部)より推進されています「六人制」のねりあいです。一つの班が六人で構成され、その中に司会進行係がいます。大勢ですと、話したい事もなかなか話せませんが、少人数で膝を付き合せて語る事が出来ますので、個々が満足出来る仕組みです。

ねりあいには毎回シートを配り、自己紹介シートに始まり、

一シート 二人の講話はどうでしたか？

二シート 教会のことで私が今、気に掛けていることは。大教会創立一〇〇周年後、今のあなたは……。

あなたは……。

三シート 大教会では道の後継者の育成が重点目標になっています。あなたはどのように育てていますか？

育てていますか？

四シート 教祖一〇〇年祭を迎えさせて頂いた今

年は基礎づくりの年。あなたの素敵な考えを聞かせて下さい。

等々。正味五時間の「ねりあい」でしたが、大変好評を得る事が出来ました。一人一人が満足に話が出来た事、又、人の話が身近で良く理解出来たことです。以後も六人制ねりあいは続けてほしいです。

扱って、大物の二人の先生のお話します。



一人は、本部講師の筒井敬一先生です。テーマ「布教」。

お話しで、東中央大教会初代柏木庫治先生の話がなされました。一布教師が一代で大教会長・本部員・本部布教部長になられた事、大正十二年に道一筋の心を定めて以来、広くかつ深く人だすけのために働かせて頂くことをその信条として、寧ろ暇なき布教活動を展開された人です。

先生は、単独布教こそ道の生命とまで云われ、「健康長寿」をまっとうしてこそ「なるほどの人」と云われるのではなからうかと申されました。



次に本部員富松幹禎先生は、「どつ育てる、道の後継者」をテーマにお話し下さいました。

一、おつとめに真心を込める。二、おたすけに励む。三、親孝行。

日々のつとめに「かんなろだいの理を戴き、親の理を戴く」と初めに申され、その中で、親孝心こそが教会長の大事なつとめであり、これがわからないと何も成ってこないとまで申され、本当に悲しみや苦しみがわかる、相手の苦しみのわかる教会長であってほしい。たすけ心が必要なのです。

また、おつくしをしつかりせんと後継者は育てられない。つくす事の大切さを大きな声でのべられました。

健康な人は案外日々身に頂いているご守護がわからない。おつくしはつそいつわりのない真実なのだ。また、教祖の後継者のお話は「こかん様」だ。二才の頃より話を楽しませ、勇ませ、世の中には水を飲めば……の話、菜の葉一枚の話と、順々に明るく教え導かれました。私達教会長も今からでも遅くない、教祖の子育て（特にこかん様）を勉強させて頂きたいものです。

夢を教え笑いを持って勇む教会長になろうと結ばれました。

最後に、アンケートより

一、講話の先生のお話は如何でしたか？

大物の先生をお呼びして頂き、心の眠がさめました。又、天の恵みの如く有難く拝聴いたしました。

二、日程は？

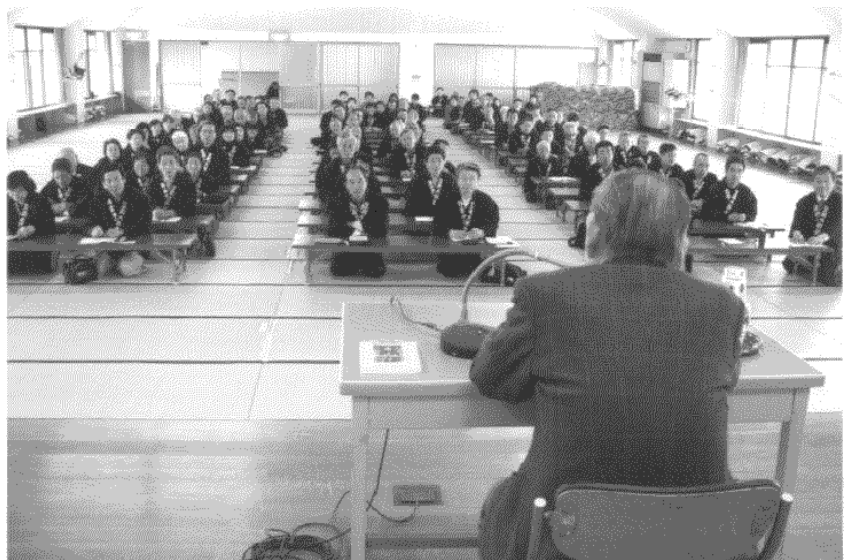
良い人が大半ですが、春の行事があるので、他の月を選んでほしいと。

三、六人制ねりあいはどうでしたか？

良い。思う存分にねりあいが出来た。又、司会者のリードが良かった。

四、何かひとこと？

- ・音響（マイク）悪かった
- ・欠席者は代理を出すべきだ
- ・決断実行あるのみ



「ご参加下さった会長様方、大多数がご満足いただいた様でした。

旬は有難いと思います。

この講習を無駄にしないようお互い努力する事が、主催者大教会長様にお応えする道と存じます。有りがとつございました。

笠岡むつみ鼓笛隊 春の台宿 開催される

大教会では、三月三十日から四月二日まで恒例の、「笠岡むつみ鼓笛隊 春の台宿」が開催されました。



これは夏のこともおちびがえりに向けて、毎年笠岡に繋がる鼓笛隊が、大教会に一堂に集まり合宿練習をするというものです。

例年になく早咲きの桜が満開に咲きみだれる陽気の中、鼓笛合宿はスタートしました。今年は大教会の少年会委員も育成係として加わるなど、大教会あげての盛り上がりとなりました。参加者は、隊員が本隊三十五名・福山隊二十九名・高屋隊二十名・島根隊十二名、係員が三十九名の、総勢百三十五名でした。

内容は、昼間はパート別の練習、合奏、行進練習と充実した練習が続き、夜は巨大スクリーンのビデオ鑑賞、女子係員による人形劇、少年会委員によるゲーム大会、また、最終日に控えた「おつとめまなび総会」のためのおつとめ練習もあり、子供達に喜んでもらおうと係員が一生懸命頭をひねらせた楽しい行事が行われました。鼓笛合宿のもう一つの楽しみは、大勢の友達と食べるおいしい食事です。今年は連日ほっぺたの落ちる様な「ちそう」が続き、参加者一同練習の疲れを忘れておいしく頂きました。

期間中は、鼓笛係員はもとより、大教会に大勢のひのきしんの方々が来て下さり合宿を見守って下さいました。本当に有難うございました。この誌面を借りて御礼



友達をさそって参加

「がえり」には仲良く助け合って、たくさん生きている喜びを神様と親に感謝をすることを、また、今年の「こどもおちび祭式」には仲良く助け合って、たくさん

申し上げます。

今からでも鼓笛をやってみたいと思う子供が近くに居りましたら、どうか各隊の方に御連絡下さい。各隊では月に一度は練習日を設けておりますので、皆様方の一人でも多い連絡を首を長くしてお待ちしております。

引き続き 少年会

おつとめまなび総会 開催

少年会笠岡団では四月二日に本年度のおつとめまなび総会を開催しました。

当日は朝からからっと晴れわたり、受付が始まる九時前から会長さんや、親子での参加者などが続々と集まってきました。そして、参拝場、廊下といったばいになった九時半丁度に雅楽の澄んだ音色が鳴り始め、おもむろに祭儀式が始まりました。今年もおつとめ衣に身を正した少年会員は、大人顔負けの堂々たる祭式をつとめ、祭文では、元気で

することを親神様・教祖に奏上しました。
つづいて直轄教会による坐り勤め、また各ブ
ックによる、よるつよ八首・十二下りのておど
りまなびが少年会員らしくはつらつと、のびのび
つとめられました。

おつとめの後の式典では、少年会長様からの御
告辞を頂きました。また、育成会長様からは教
の根本を分かりやすく、ときには微笑みながら、
ごども達にとって身近な質問をはさみながらの
話しをして下さいました。また、この春、中学校
を卒業する少年会員に若木の門出として記念品が
贈られました。

その後、昼食のおいしいカレーライスをいた
だき、午後からのアトラクションは、少年会員が各
チームにわかれ、大なわとび、靴とばし、空き缶
剣玉、ペットボトルの起き上がり、米袋送り、ク
イズ、伝言ゲーム、スーパースポーツなど、



もりだくさんの
のミニ運動会
を楽しんで午
後三時には閉
会し、おやつ
のアイスク
リームを食べ
て解散しまし
た。
参加者は、少
年会員・育成

会員合わせて五百名余りの大勢でした。各教会・
各隊、また婦人会をはじめ関係各会・各部の皆さ
まがたのお力添え、誠にありがとうございました。

青年会自転車団参視察隊

隊長 森本 正典

この度、青年会笠岡分会委員長が、田中隆之氏
から佐藤真孝氏に交替しました。

それに際し、何か委員全員がまとまることので
きるような行事がしたいという思いから、五月二
十五日・二十六日で自転車団参をしようという事
になりました。

それに先駆けて、委員以外も、ぜひ何かさせて
頂くことと思い、視察隊——隊長以下九名——が結
成されました。

四月六日に大教会を出発。岡山を過ぎた頃から
大雨に見舞われ、転倒者が続出する中、大した事
故もなく、三十時間を仮眠無しでついにちばに到
着する事ができました。

今回、皆が手にする事ができたのは、本物の友
と、初代様の思いに似た何かだったような気がし
ました。この、命をも落としかねない先行行事に
参加頂いた方々には、素晴らしい勇気を見せて頂
いた様に思います。

今の「笠岡」は、昔よりも静かになったような
気がしていたので、これを機に、何かが動き始め

てくれればと願ひ、これからも頑張っていこうと
思いました。

青年会の佐藤委員長には、寛大な計らいを頂き、
又、大教会の方々に大変御協力を頂きました事、
心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



隊員手記

先人の足跡を自転車で……

海松ヶ岡分教会 森本 実

「今度、四月六日・七日に自転車でおぢばがえりをするからよろしくな。」との言葉に、

「うん分かった。気をつけてな。」と他人事のように軽く返事をした。

そんな事を忘れ、三月末からの行事続きで、四月三日にはぐったりとしていた私。四月五日には準備くで大慌て。

そんな中、兄から「この自転車はお前が乗るから、空気多めに入れとかんとな……。」と言われ、

「ちよつとまってるえ、僕も行くのか？ それは無理やで……。」

と言いつつ返すが見事に聞き流し。それに続いて兄は、「お前は先人達の苦勞を少しでも味わわせてもらったほうがええ。」と言われ、準備していた看板の文字書きの手がだ



んだん動かなくなってきた。

そこに居た会長様に、自信のない事を伝えると、会長様からも

「考えすぎや。もっと大事な事がある。」

と説得ゆめいた事を言われ、逃げ道はなくなつた。意を決し(しかたなく?)参加する事にした。

四月六日朝五時起床、六時四十五分大教会到着。だんだん身も心もふるえて来た。七時十五分大教会をいざ出発。

「喜び心を忘れずに。」の兄の言葉に、みな元気に勇んでペダルを踏み始めた。隊長以下七名が大教会を出発した。

鴨方近くを四十五分程度で通過した時には、少しわくわくしたが、玉島で休憩した時、初回メンバー三人はおしりの痛みに苦しみ始めた。

行けど進めど、なかなか岡山市を脱出できず、本当に大丈夫かなと思つていた時、最年長の人の自転車の前タイヤが溝にはまって変形してしまひ、一時は走行不能とまで考える程の状態を、何とか前に進めるといつ事で再出発。

だんだんに峠の多い岡山のはずれまで行くと、一つの峠を越える度に、足・腰・体全体と痛み辛みが増えて、よいいモーターに着いた時は、もうふらふら……。そこで、強敵の雨が降り始める。

ちよつどここに着く前に合流したトラック搬送隊二名はカップのズボンを探しに走るがなかなか見当たらない。自転車隊はその間も雨に打たれながらペダルをこぐ。体は雨で冷え、前も見にくい



状態。やっとの思いでカップのズボンを見付けてくれた時には、全員ずぶ濡れだったが、はいてみるととても温もりを感じ、元気がいた全員は一気に姫路まで走った。

ほとんど言葉数も減り、疲れはピーク。時計を見ると、このままのペースでは、完全に明日の別席に間に合わない。

その時、今回二回目のS氏が

「僕は一回目の時も、奈良付近で時間が間に合わず強制的に車に乗った。今回こそは、と臨んだのに……。」

と、とても悔しがる。その姿に、みな心を打たれ、「仮眠なしでもいいから頑張ろう。雨も、少し軽くなったからペースを上げて、行けるところまで行こう。」

という事になり、力を入れて、またペダルを踏み始める。

須磨到着午前四時半。雨は止んだ。「一気にペースが上がって
るから、このまま行けば何とかなるぞ。」「全員そんな気持ちで前に進む。

大阪に入っ
た時にはもう
すっかり朝と
なっていた。



みんな後半にペースが落ちると思っていたが、休憩らしい休憩もなく、気力だけで進めた甲斐あって、何とか先が見えてきた。

しかし、奈良に入る

直前から、気力もま

まならなくなり、

先頭から最後尾

までの距離も

かなり離れて

きたが、み

んな、「後少

し、後少し……」と踏ん張り続け、天理 16 km

の看板を目にした隊員は、心にゆとりが出始めた。何と、時計の針が午前十時をまわった所だったからだ。

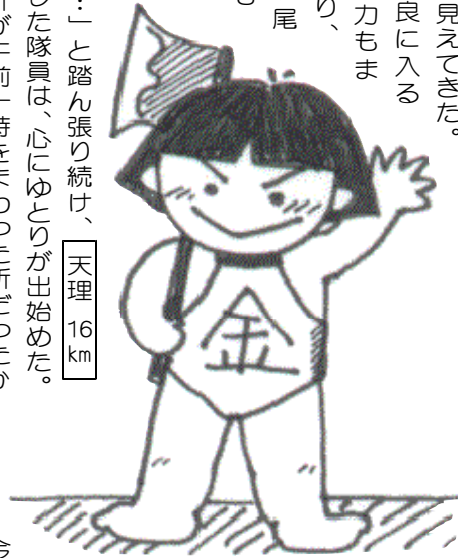
時間に間に合わなかったらと心配して、天理から森本忠善氏が救援車で駆け付け、

「もう、ここまで来た。十二時半には神殿に着くぞ。」

と励まされ、感動というか、感激で一杯だった。それはS氏のみならず、みな同じ気持ちだった。

そこでの休憩もそこそこ、すべし出発。何と、時間通り十二時二十分、黒門を全員揃ってくぐり抜けることが出来た。

十二時半に神殿に着いた時、何より嬉しかったのは、やはり、自分がここまで来られたという実感だったが、次の瞬間、S氏の笑顔を見た時、涙がこぼれそうになった。一回目の失敗を二度も繰



り返してなるものかと言わんばかりの姫路からのペースメーカー。先頭に立ち、ぐんぐんスピードを上げて踏ん張った彼に、「おめでとう。よかったネ」という感じがした。

私は、一回目にして、無事みんなについて行けてよかったというだけだが、彼は本当によく頑張った。他のメンバー全員が頑張ったから彼も頑張れた。一人の気持ち・心は弱いものだが、お互いが一致団結して励まし合うのは本当に心強いものだ。

心の中では、もっと簡単に考えていた今回のおちば帰り。今後、生きていくためには、本当に大きな自信になりそうだ。

「やる前に出来るか出来ないか考えるより、先ず行動。それでダメならそこで考える。それぐらいの勢いを私達お道の者は忘れてはならないのだ。」とやっと思えられる今日この頃。

本当に、今回、参加を許可してくれた会長様、又、誘ってくれた兄に、そして、道中を引っ張ってくれメンバーに、又、教会で無事を祈って十二下りして下さった皆様に感謝、感謝。

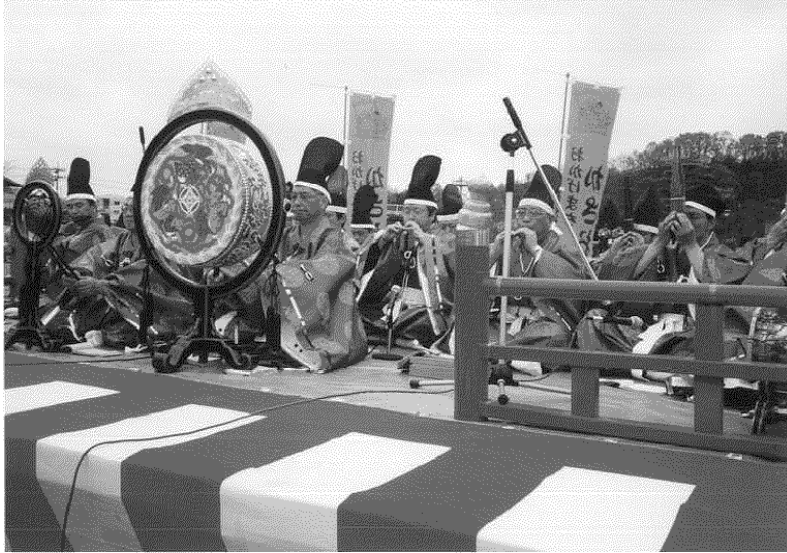
本当にありがとうございました。



笠岡さくら祭り

雅鶯会が花を添える

市政五十周年に沸く笠岡市では、去る四月七日(日)、笠岡運動公園において、「笠岡さくら祭り」(笠岡市・笠岡商工会議所共催)が行なわれた。



メイングラウンドには、フリーマーケットや露店など百店舗が出店、それと向かい合う形で、芸能特設舞台が設けられ、多様な演目が披露された。芸能プログラムには、ダンス・大正琴・錢太鼓・応神太鼓・傘おどりなどがあつたが、中でも観衆の目と聴衆の耳を惹いたのは、雅鶯だつた。我々が雅鶯会の演奏である。

この催しは、年に春秋二回行われているが、雅鶯会は、一昨年春、出演を申し込み初めて出演して以来、主催者の方から、毎回出演を依頼されるようになった。昨春秋は、大教会記念祭の為、欠席したので、今回が四回目になる。

雅鶯会員十八名が楽服にて出場、広い会場の市民に千二百年の歴史を持つ、日本独特の雅な古典音楽の調べをお聞き頂いた。

欄干などで舞台を整え、マイク六本で集音する中、舞台前に集まつて来られた興味津々の聴衆に、婦人の手で、「雅鶯会紹介」(明治二十年発足以来の会員数や、ヨーロッパ等への招待演奏など、雅鶯会の演奏経歴を紹介したプリント)が配られた。

メンバーは、左記の通り。九時半、拠点教会に集まつて、更衣・練習。十時五十分、出演。好評を頂いて、拠点に戻り、会食・懇談した。「雅鶯会桜祭り」の様な雰囲気であつた。

手早く処理して現像した記念写真をメンバーに配つて解散した。

鞆鼓 西平和史。



- | | |
|----|---------------------------|
| 太鼓 | 原公彦。 |
| 鉦鼓 | 渡邊孝信。 |
| 笙 | 掛谷宣和、藤井正仁、谷内幸司。 |
| 箏 | 森本重吉、北川治史、北川和成。 |
| 龍笛 | 森本孝志、森本勉、森本勇。 |
| 司会 | 矢田哲一、枝廣隆文、山野弘実、森本清伸、森本慶一。 |
| | 森本忠平。 |

談話室



よふぼくの種 大切に育てたい

湯田原分教会長 高木昭祥

私が学生の頃、先輩が「続いてこそ道」と言われたことが凄く心に残り、親に喜んで頂くことが大切だと思い、お道を通らせて頂く要員の一つになりました。

その時から早くも三十年余りが過ぎ、未だにその言葉が忘れられず、脳裏に残っています。

今は、自分の徳一杯の小さなでこぼこ道を曲がりなりに通らせて頂いて居りますが、いつも次の代に信仰が続くことを願っております。でも、成人不足から信心の道を次の世代へうまく伝え切れません。

そこで、我子とはとより信者さんのこともさんも、大教会の鼓笛の練習を通して、親神様の「恩が少しでも分かってくれたらいいな」と思っております。

私が小さい時、今は亡き藤井さんに大教会の鼓笛合宿に一度だけ連れて行って貰いました。小さな



伏せ込みの種であったと思われれます。

それから、私が上級への伏せ込み時代、上級の会長さんをお願いして、友人と多くの係員の手助けを頂き鼓笛隊を結成し、多くの少年会員が育ちました。その中には、お道につながってくれてる人も大勢いるので、大変喜ばしいことだと今でも思っています。

ですから、教会内容の充実の為に、鼓笛隊活動が必要だとの思いが一杯あることと、「道は小さい時から」と、お聞かせ頂くことから、三年前、保育園児の女の子をはじめ、小学校低学年の子供四人を大教会の鼓笛合宿に参加させたけれど、夜が深まるにつれホームシックになり途中止めて帰ってしまいました。

その子供達に、昨年、鼓笛合宿に参加するように誘ったが「二度と鼓笛練習に行かない」と強く言っていたが、この度、再度、その子たちに楽しみと喜びを見つければ言うて誘ったら、九名の子供が参加してくれることになり、大変うれしく思っております。

そして、ほんの数名の小さなよふぼくの種、大切に育てたいなとも思っております。

今年から、教祖百二十年祭に向かって、大教会の歩みが「道の後継者の育成」に主眼を置かれますので、少しでも、旬の歩みに沿うように努めさせて頂きたいものです。

学生層育成者講習会

- 日時 平成14年5月21日(土)正午～
5月月次祭祭典講話として
- 講師 本部学生担当委員会委員
松村登美和先生(東京分教会長)
- 内容 講話「学生層育成の大切さ」
- 対象 教会長夫妻・布教所長夫妻・よふぼく・信者
※報告書提出の都合上、受付にて参加人数をお知らせ下さい。

間近に迫るひのきしんデー (立教165年)

5月12日 日曜日

*大教会長様は

5月12日のひのきしんデーの重みを考え、**12日が**祭典の教会は 祭典後に必ずさせて頂こうと発表されました。

*次に今迄と変わった事は、

1人のよふぼくが複数の会場に参加する場合、お手数ですが、毎回参加カードを提出するようお願いいたします。

大教会は

昨年の倍の動員を！

さあ、いよいよひのきしんデーが間近に迫ってきました。今年のテーマである『全よふぼくが家族ぐるみで』参加する。大教会につながる全よふぼくの大勢の参加を希望いたします。5月中何回参加してもかまいません。

布教部

いざ、青年会ひのきらん隊へ

第百母屋での団体生活及び修練活動を通して、3信条（神一条の精神・ひのきしんの態度・一手一つの和）を身につけ、あらかとうりょうの名に相応しい成人への歩みを進めよう！！

ご身上の方でも大歓迎です。

“育ては育つ、育てにゃ育たん”のお言葉通り、お世話取りしてもらう方・お世話取りさせて頂く方の双方が成人させて頂ける絶好の修練道場です。

皆様の入隊を おやさまがお待ち下されています。

期 間：6月1日⑤ ～ 6月24日⑥

5月31日⑦ 午後2時に、大教会よりマイクロバスが出発します。

携行品：参拝往復に使用する履物、作業ズボンのベルト、
作業用履物（地下たび、長靴等）、筆記用具、保険証、
カッターシャツ、ネクタイ、スラックス、白靴下

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

日増しに日の出が早まり寒さも和らぎ暖かさも増しウグイスの鳴き声も多く又大きくなって春の喜びを感じる季節となりました。そして学校に通う子供達には悲しい別れの旬ときであり又新しい環境への希望と不安の旬ときでもあります。そういう喜怒哀楽を味わえるのも親神様から心の自由をお許し頂いているからでありますしお身体を貸し与えて下さっているお陰と今更ながらに親神様の親心と御守護の程に感じ入りお礼を申し上げる次第でございます。私共は日々朝夕のおつとめを通してお礼を申し上げつつ御恩報じを思い念じてたすけ一条の上に一生懸命勤め励ませて頂いておりますがその中にも今日の吉日は三月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一汐に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めさせて頂きます。御前には今日の日を待ちわびて寄り集いました道の子供達が相共にお歌に唱和し同じ喜びと感謝を胸に伏し拝む真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて教祖百二十年祭に向け「にをいがけ」と「道の後継者育成」を申し合わせて成人の歩みを進めさせて頂いておりますが今の旬はこれからの道を担う子供達がいろんな感情を味わう事によつてまさしく大きく成長する旬でもあります。道の後継者へと成人して貰う為にはこの旬に子供達と関わりを持つ事がいかに大切であるかとの思いから「声は肥やで」とのお言葉に添うべく今まで以上にしっかりと声掛けをさせて頂く所存でございます。又人が助け合う事が希薄になり助け合う範囲が狭まってきた為に世上不安を招いている現状を見るにつけ少しでも助け合う事の大切さを知らしめ広める為にも損得ではなく只親神様の御心にとけ込む事の出来る「にをいがけ」に邁進させて頂く覚悟でございます。

何卒親神様には神一条に心を向け思召に添い切る皆の誠実をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り人々の心をたすけ一条へと立て替えて下さいましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状へ一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます。

・原・稿・募・集・

* 我が教会の自慢

- ・ 祭典日直会の御馳走
- ・ 建物自慢
- ・ 庭の銘木……

* エッセイ「談話室」(信仰的な内容)

* 俳句・和歌・川柳(傾向は問いません)

* 教会行事開催後の報告記事 等々

大教会内『かさおか』編集掛宛 ドシドシご寄稿ください。



春季 霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家ご先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代会長上原伊助大人光刀自の御霊三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会創設の頃より長の年月歴代会長と共に御苦勞下さいました役員部内教会長教人よふばく信者の御霊諸々の御霊の前に会長上原理一慎んで申し上げます

御霊様方には親神様教祖のお見定めにより早くからこの道にお引き寄せ頂かれ思召のままにたすけ一条の上に生きの限り勤め切られました 今日笠岡の結構な姿をお見せ下さっておりますのもひとえに親神様教祖の御守護とお導きの賜である事は申すまでもありませんが一つには御霊様が身上事情を通して我身我家のいんねんを悟ると共に無い命助けて頂いた御恩報じの思いと世界一列を助けたいとの親心に触れ何でもどうでもと心定めの上に心定めを重ねたすけ一条の真実を伏せ込んで下さったお陰と朝夕おつとめを通して御礼申し上げておりますがその中にも今日の佳き日はこれの教会の春の御霊祭りを執り行う日柄でございますので只今は親神様の御前にておつとめ奉仕者一同心を揃えて一手一つにてをどりをつとめさせて頂きましたそしてゆかりある人々が御前に寄り集い旬の草々の物を供え在りし日の面影を偲び御遺徳を称え改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして御霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて昨年は大教会創立百十周年記念祭を盛大につとめさせて頂く事が出来ました事は誠に有難く御霊様方の伏せ込みとお力添えの賜と改めて御礼を申し上げますと共に本年年頭に当たつて真柱様より教祖百二十年祭を執り行うとのご発表を頂きましたので年祭に向け私共は「にをいがけ」と「道の後継者育成」を申し合わせて尚一層の成人を目指し実動に邁進させて頂いている最中でございますれば何卒御霊様方には子供の為にと難儀不自由の中をお通り下さった親心に応えるべく親に喜んで頂きたい一心で成人へと歩む皆の真実の心をお受け取り下さいましてよふばく信者の家族が皆揃って信仰の喜びを分かち合える姿を御守護頂きますようお願い添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



いるのに何で母ちゃんなんだ。母ちゃんがいかにいいんかにい

「カチャ、ギー、パタン。ミッシ、ミッシ」「ただいまー」「お帰り」「何かある。今日のクラブしんどかった」
中学二年生の三男の場合。

んか。父ちゃんだってお前たちのために一生懸命頑張ったぞ。一回ぐらい父ちゃんはどこと云ってみる。まあ、ここの一番という時は父親の出番なんだから。それでいいから。息子二人がやって来た。

「ガチャ、ギー、パタン！ギッシ、ギッシ」

「母ちゃん、晩ごはん何？」

「お帰り」「ムニヤムニヤ言葉とは思えない言葉」「あー腹へった。もうだりーなー」

「おい、おい、また母ちゃんか。感情神経細胞が溶けはじめたぞ。こりゃいかん。もう一杯いかんといけん」

高校二年生の次男の場合。

無二の親友焼酎クンに手を伸した瞬間、家内の無言の視線を感じた。思わず手を引っこめる私。習慣とは恐いものだ。主のいないカップの中で、寂しくカランと音をたてる氷。

帰宅時の様子である。二人の行動には少々の違いがあるが、この後の言葉は同じ。「お母ちゃんは？」

「ひょっとして、俺の出番なんかもうないのかもしれないぞ」

夜、一杯飲みながらふと思いつく。父ちゃんが目の前に

「ひょっとして、俺の出番なんかもうないのかもしれないぞ」